

令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業 地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名

恵庭市

(都道府県:北海道)

1. 当該地域の情報 (令和3年3月現在)

地域の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●2015年まで230～240名で推移していた在住外国人数が、市内の企業や農家などで受け入れている技能実習生を中心に、3年ほどで倍増し、2019年12月末時点で497名に急増。 ●技能実習生以外にも、日本人の配偶者(技能実習生として当初滞在していた後に日本人と国際結婚した者も含む)や仕事等で滞する家族帯同者、留学を経てそのまま地元企業等に就職する者など多様な在留者も微増ではあるが、増加傾向にある。 ●国籍別で見ると、2015年までは、中国、韓国・朝鮮が半分以上を占めていたが、ここ数年はフィリピン、ベトナム、台湾、ネパールなどアジアを中心に多国籍化している。 ●コミュニケーション支援、特に日本語習得支援と地域住民との交流の機会についての要望が在住外国人から寄せられている。 ●地域の日本人から、日本語教師の資格を持ち過去に外国人に日本語を教えていたことがあるが、市で日本語教室を立ち上げるのであれば協力をしたいが、活躍の場がないとの申し出が2件あった。(公募するとさらに協力を申し出てくれる日本語教師有資格者が出てくる可能性もあり) ●在住外国人の増加のニュースをみて、日本語習得支援などのボランティアがあればしてみたいとの問合せがあった。
在住外国人数 外国人比率	在住外国人数:516人、外国人比率0.73% (2021年3月1日現在)
在留外国人の 状況	<p>【主な国籍】 ※上位10件までと各人数(2021年3月1日現在)</p> <p>1)ベトナム174名 2)フィリピン129名 3)中国85名 4)韓国・朝鮮44名 5)ネパール28名 6)台湾15名 7)インドネシア6名 8)ブラジル3名、米国3名 9)ミャンマー、カナダ、ドイツ、インドネシア、ロシア、タイ、英国各2名</p> <p>【在留資格】 ※上位10件までと各人数(2021年3月1日現在)</p> <p>1)技能実習生2号口147名 2)技能実習生1号口68名 3)永住者53名 4)技術・人文・国際52名 5)特定活動41名 6)特別永住者28名 7)技能実習生3号口27名 8)留学22名 9)日本人配偶者21名 10)特定技能1号10名</p> <p>【滞在年数・在留期間などの状況】</p> <p>在留期間は、技能実習生は制度上の理由で3～5年間、留学生は2～4年間が中心。その他の在留資格の外国人については、滞在年数・在留期間は様々。</p>
在住外国人の 日本語教育の現状	受入れ団体(学校及び企業)で実施している日本語教育以外で、市内で日本語を学べる場所はない。そのため、日本語教育をしている団体に属さない外国人、又は受入れ先の勉強だけでは足りないという外国人が地域で学びたい場合、自学学習あるいは往復2,000円近い交通費をかけて札幌市内のボランティア団体の教室へ通うことになる。毎週、往復1時間以上の時間と高額な交通費をかけて日本語を学ぶのは難しいと、地域での日本語教室開催希望者が近年増えている。

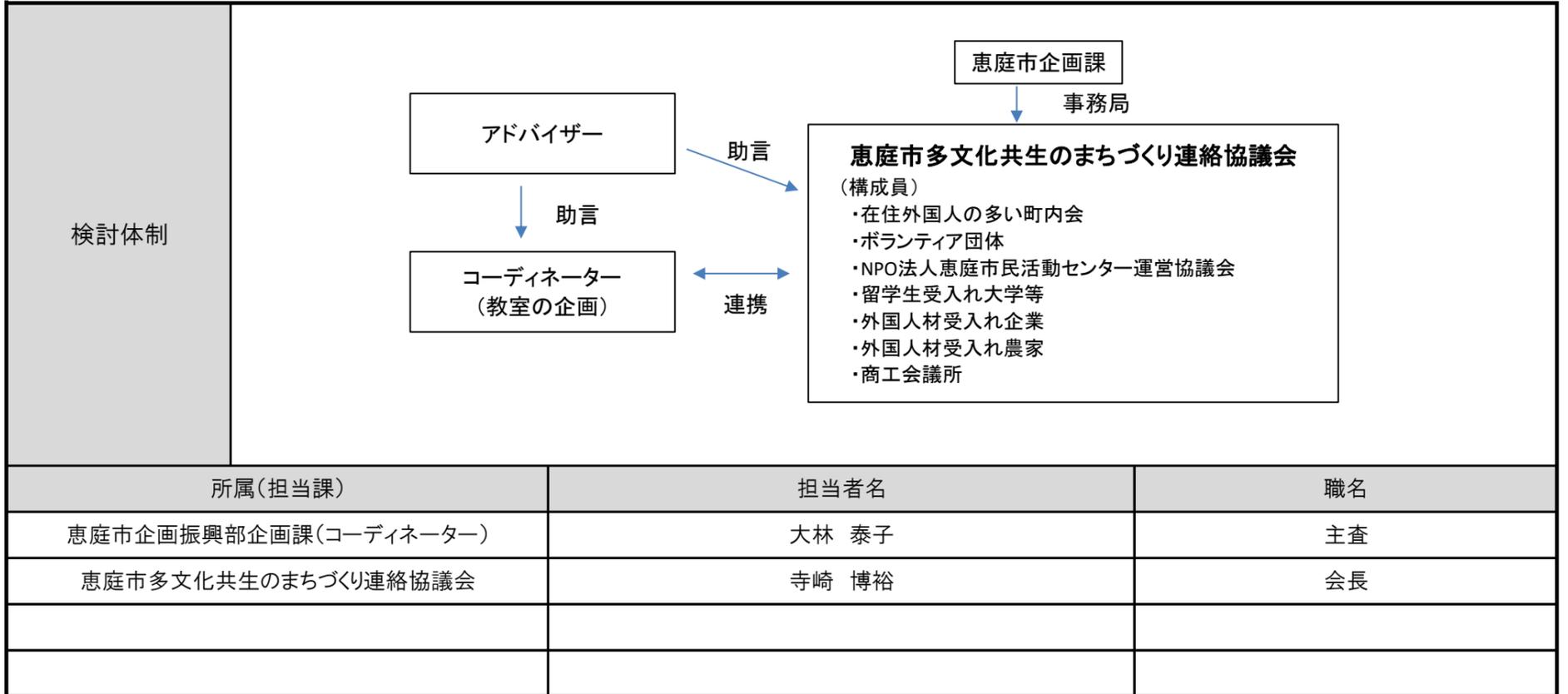
2. 事業の内容

本プログラム取組年数	1年目
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ①日本語教師の人材発掘 ②日本語学習支援者の育成 ③地域日本語教育コーディネータの人材発掘
事業の概要	<p>【アドバイザー会議(オンライン)】</p> <p>第1回(7月) 実施計画の検討、運営体制の検討 第2回(12月)日本語ボランティア入門講座の開催に向けての助言、新たなコーディネーターの選定についての助言 第3回(1月) 日本語ボランティア入門講座の受託事業者や次年度のコーディネーター候補者を交えて、方向性の確認 日本語ボランティア入門講座のプログラム案に対する意見交換や助言 第4回(2月) 日本語ボランティア入門講座の実施状況報告、次年度の進め方についての助言</p> <p>【日本語ボランティア入門講座(オンライン)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一般社団法人)にほんごさぽーと北海道に委託し、1コマ90分の6回、全9時間のボランティア入門講座を実施。 <p>プログラム内容</p> <p>第1回 オリエンテーション(恵庭市の在住外国人の現状、地域日本語教室の役割) 第2回 日本語ボランティア ～外国人に日本語を教えるということ～ 第3回 「やさしい日本語」を知ろう 第4回 初級の日本語文法 第5回 生活の日本語① 第6回 生活の日本語②</p>
事業の対象期間	令和2年7月～令和3年3月
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)	

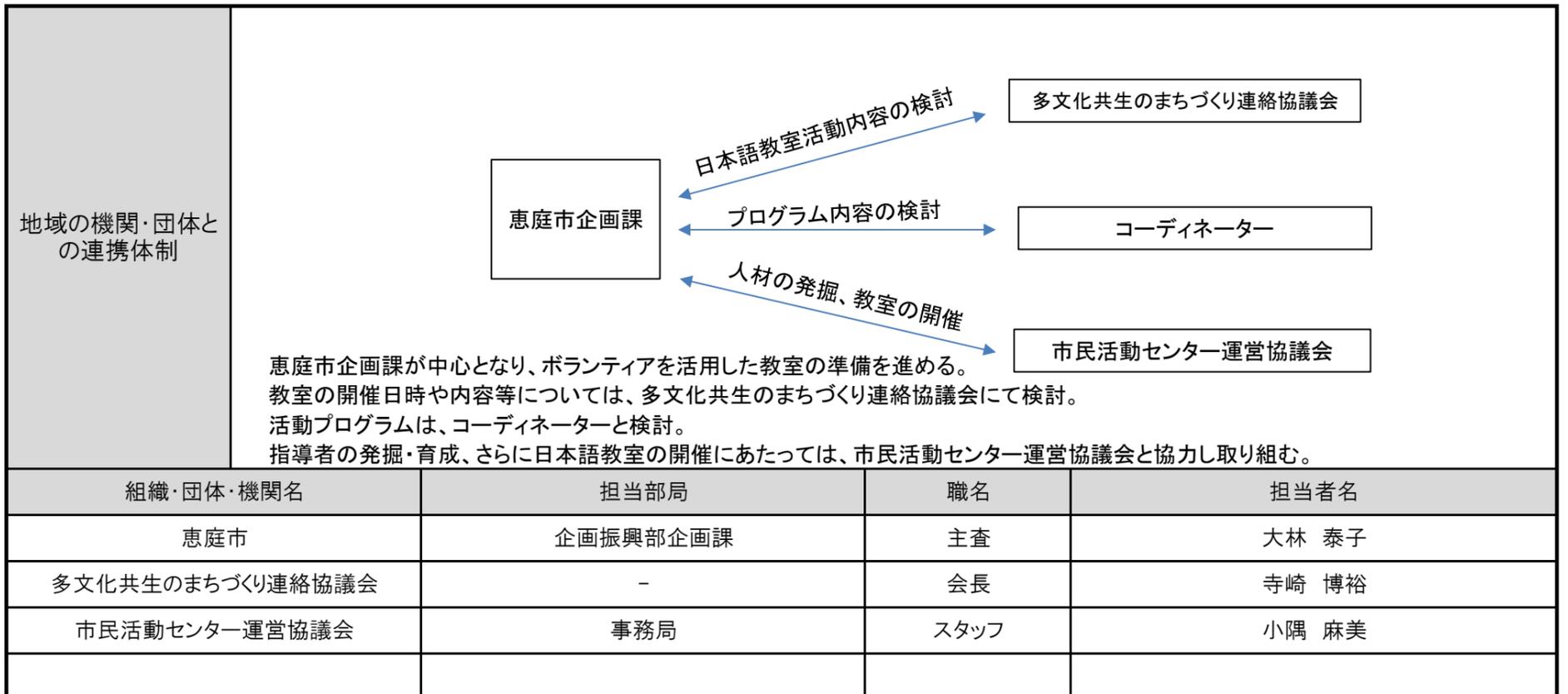
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	大林 泰子	恵庭市企画振興部企画課	主査	日本語教室運営
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	伊東 祐郎	国際教養大学専門職大学院	教授	継続・新規(1年目)
	結城 恵	群馬大学 大学教育・学生支援機構 大学教育センター	教授	継続・新規(1年目)
	内海 由美子	山形大学 学術研究院	教授	継続・新規(1年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



4. 具体的な取組内容

(1)年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和2年 4月			
令和2年 5月			
令和2年 6月			
令和2年 7月	第1回アドバイザー会議 コーディネーター会議	実施計画の検討	実施計画への助言・指導
令和2年 8月	次年度のコーディネーター候補者の人材発掘		
令和2年 9月	次年度のコーディネーター候補者の人材発掘		
令和2年 10月	次年度のコーディネーター候補者の人材発掘		
令和2年 11月			
令和2年 12月	第2回アドバイザー会議		進捗報告と今後の進め方について検討
令和3年 1月	第3回アドバイザー会議(次年度コーディネーター候補も参加)		進捗報告と今後の進め方について検討
令和3年 2月	第4回アドバイザー会議 日本語学習支援ボランティア入門講座の開講(市独自財源で外部委託) (現状では、地域の日本語教室の運営の軸となる人材がいないことから、その人材を発掘。また、学習支援ボランティアを育成する目的で実施)		事業の進捗確認及び来年度に向けての助言・指導
令和3年 3月	日本語学習支援ボランティア入門講座の開講(外部委託) (現状では、地域の日本語教室の運営の軸となる人材がいないことから、その人材を発掘。また、学習支援ボランティアを育成する目的で実施)		

(2)立ち上げた日本語教室の詳細

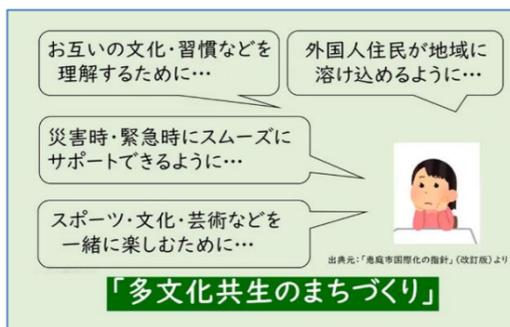
教室の名称	まだ立ち上げていない						
外国人参加者について					参加者数 (内 外国人数)	受講者 名 支援者 名 (日本語指導者 名、サポーター 名)	
開催時間数	総時間	時間			内訳	時間 ×	回
目標							
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1							
2							
3							
4							
5							

教室の立ち上げに係る問題とその対応策	
--------------------	--

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
日本語ボランティア入門講座	令和3年2月	<ul style="list-style-type: none"> ●今までに地域で日本語教室が無かったことから、人材発掘も兼ねて入門講座を開講。 ●「(一般社団法人)北海道にほんごさぽーと」へ講座実施の業務を委託した。(市独自財源で実施) ●ボランティア入門として、1コマ90分の6回、全9時間のボランティア入門講座を実施。 ●当初定員20名を超える40名程の申込みがあったことから、週2回同じ講座を実施。 ●プログラム内容 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション(恵庭市の在住外国人の現状、地域日本語教室の役割) 第2回 日本語ボランティア ～外国人に日本語を教えるということ～ 第3回 「やさしい日本語」を知ろう 第4回 初級の日本語文法 第5回 生活の日本語① 第6回 生活の日本語②

【主な活動】



日本語ボランティア入門講座 説明資料



日本語ボランティア入門 講座受講の様子

5. 今年度事業全体について

進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ●当初実施を計画していた各種事業のうち「日本語ボランティア入門講座」のみ実施。 ●「日本語学習支援者セミナー」「学習者のニーズ把握」「日本語教室の試行実施」は実施できず。
事業推進にあたり問題点と対応策	<ul style="list-style-type: none"> ●行政担当者のコーディネーターのみで事業を進めていたため、兼任業務との兼ね合いから事業進捗の遅れの原因となった。今後はコーディネーターを複数名登録し、事業実施の業務を分散して進めていきたい。 ●コロナ禍において、当初どのようにセミナーや講座等を開催すると良いのかわからなかったが、ボランティア入門講座をオンラインで実施して手法が見えてきたことから、今後はコロナの感染状況をみながら、オンラインも活用していきたい。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ●アドバイザー会議により、事業の進め方の方向性を見出すことができた。 ●行政だけで取り組むのではなく、市民を巻き込んだ活動として進めることができた。 ●コーディネーターや日本語ボランティアなどの人材発掘ができた。
地域の関係者との連携による効果	<ul style="list-style-type: none"> ●地域関係者との連携をとることによって、様々な視点による検討が出来、地域の現状にあった事業の推進ができる。
コーディネーターの主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ①体制整備のための調整(20H) ②人材育成のための調整(50H)
アドバイザーの主な助言	<ul style="list-style-type: none"> ●地域日本語教室立ち上げにあたっては、住民パワーを活用し、一緒に作り上げていくのが良い。市民中心に作り上げていかないと住民主体のものとならない。 ●ボランティアには、地域の実状を知っておいてもらう必要がある。なぜ恵庭市に外国人がいるのか、地域にとってどのような存在なのか、在住外国人の社会的背景を説明する必要がある。 ●ボランティアがしっかりと認識することにより、地域の日本語教室を介した外国人との交流がより深いものとなる。 ●日本語学習者がどのような場面で日本語のコミュニケーションに困っているのか、生活で何が不便に感じているのかを知る必要がある。 ●日本語が話せるようになれば、理解しあえるというものではない。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍におけるセミナーや講座の開催、ニーズ調査の方法。 ●オンラインでのメリットがあるが、対面式と比較し、制約があるため準備等検討に時間を要する。 <p>【今後の取り組み方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により制限もあるが、オンラインを利用したり、感染対策に気を付けたりしながら、セミナーや講座を開催する。 ・令和3年度は、今年度発掘したコーディネーター候補者にコーディネーターとして活動していただく予定。 ・今年度ボランティア入門講座を受講した方々からは、実際のボランティアの場がほしいという意見や日本語教室での活動について、映像をみてイメージを持ちたいという意見があり、セミナーや講座の開催により、引き続きボランティア養成に努める。 ・関係者の意思意向を確認しながら、地域の日本語教室の運営者候補を見つけることを目指す。
今後の予定	<ul style="list-style-type: none"> ●日本語ボランティア活動に関心のある地域住民を中心に、どのような地域日本語教室を立ち上げていくのか考えてもらう。 ●地域日本語教室の立ち上げにあたって、日本語学習希望者へのニーズ調査(アンケートあるいはヒアリング)を行う。 ●ニーズ調査にあたっては、日本語ボランティア活動に関心のある地域住民に調査内容について検討してもらい、調査に関わってもらう。 ●ニーズ調査結果をうけ、地域日本語教室の試行実施を行う。 ●恵庭市多文化共生のまちづくり連絡協議会や地域住民などに向け、アドバイザーによる多文化共生セミナーなどを実施し、多文化共生社会の実現に向けた地域住民の機運醸成を図る。 <p>【今後の取り組み方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は、今年度発掘したコーディネーター候補者にコーディネーターとして活動していただく予定。 ・アドバイザーからの「地域日本語教室立ち上げにあたっては、住民パワーを活用し、一緒に作り上げていくのが良い。市民中心に作り上げていかないと住民主体のものとならない。」という助言から、地域の機関・団体、ボランティアとともに教室開設の準備を進める。 ・関係者の意思意向を確認しながら、地域の日本語教室の運営者候補を見つけることを目指す。

本件担当 : 北海道恵庭市役所 企画振興部 企画課 事業調整担当